



「朋友」とは、同信のなから。
2008(平成20)年4月の仏教壮
年会連盟発足にあたり、仏社
会員が力を合わせ、ともに歩
みを進めていこうという願い
から名づけられました。

東日本大震災により 被災された皆さまに 謹んでお見舞い申し上げます

浄土真宗本願寺派 仏教壮年会連盟



田方理事 そう、若い
会員(年代層)に合っ
た行事も考えて、若
い世代が活動しやすい環境づく
りが必要です。

杉本副理事長 住職にも法事など
で門徒の家を回った折には寺院
活動、仏教壮年会の活動につい
て説明してもらい若い方にもお
寺に来てもらえるよう話しても
らうことも大事ですよ。それ
で仏教壮年会の活動に関心を持
ってもらい、入会に繋がるよう
にしてほしいと思います。

中村理事 今はかなり高齢の人で
も「現役」として仕事をしていま
す。だから、お寺でゆつくり話す
余裕がないようです。また住職
にも門徒の生活や関心事をよく
理解してほしいですね。門徒は、
「ありがたいご法話」を望んでい
ますから。

小林講師 僧侶方への不満の声は
私もよく聞きます。同じお念仏
の仲間、朋友として門徒さんの声
に耳を傾け、易しくてありがたい
ご法話のできる僧侶に生涯努力
を続けてもらいたいと思います

し、そのような僧侶の育成に取
り組みたいとも思っています。

竹内理事 連盟規約の年齢制限廃
止を受けて、会員を増やすため
に高齢で退会した元会員に再加
入してもらう活動を進めている
仏壮もある。今後は、仏壮の中
に「若い人の会」、「年配の人の
会」を設けるなど、年齢層で役割
や活動を分ければ、親が子に入
会を勧められるようになり、有
効な方策になるのでは？

牧田理事 長寿社会なんですから、
年齢にかかわらず意欲的に参画
してくれる仏壮会員であればいい
と思います。何よりも、一人
でも多くの人が活動してくれる
ことが大事なのだから…。

幸田理事長 そうですね。仏教壮
年会は高齢化ばかり心配せず、
定年を過ぎた方々でも、お念仏
をよろこぶ人々とともに発展し
ていくことが良いと思います。

広報委員会 皆さまありがとうございます。
ございました。

(※聞き手／山中長一郎理事(広報委員長))

事務局よりの報告

二〇一一年度より沖縄県から 評議員を選出

二〇一〇年度第一回評議員会にお
いて、次期評議員選出時に沖縄県宗務
特別区仏教壮年会連盟よりの評議員
選出が議決されました。

宮崎教区仏教壮年会連盟宛て、 義援金を交付

二〇一〇年度仏教壮年会連盟「幹
部養成研修会」において、宮崎県新燃
岳噴火被害に対する募金を行い、三月
十八日(金)に宮崎教区仏教壮年会連
盟宛てに交付させていただきました。



2010年度第1回評議員
会へオブザーバーとして
出席頂いた沖縄県宗務特
別区仏教壮年会連盟現
理事長 山川伸幸氏



幸田昌三理事長(左)より、塩月
光夫 元全国仏教壮年会議
議員(宮崎教区)(右)宛て、目
録を交付
2011(平成23)年3月2日(水)

二〇一〇(平成二十二年)年度仏教壮年会連盟「幹部養成研修会」開催

二〇一〇(平成二十三年)年二月十二日(土)十三日(日)に、二〇一〇(平
成二十二年)度仏教壮年会連盟「幹部養成研修会」を開催しました。
研修会では、最初に「研修会のねらい」を幸田昌三理事長よりお話し
いただき、引き続き当連盟活動推進講師・小林顯英先生の「浄土真宗教義」、中
央基幹運動相談員・季平博昭氏の「基幹運動」講義がありました。

その他、話し合い法座・全体会(パネルデ
イスカッション含む)などでは、参加者から
多くの意見・質問が出され、活発的な意見
交換が行われました。また本年度は新たな
試みとして、参加者の交流を深めるため、
夕食後に茶話会を開催いたしました。

最初は緊張された方もいらつしやいまし
たが、意見交換をする中で最後は和やかな
雰囲気の中で終了しました。参加者の皆様
が本研修会を通して学ばれたことを基とし
て、各教区・単位会におきましてご活躍さ
れますことを念じ申し上げます。



組織の拡充拡大の想いを行動に

仏教壮年会連盟 副理事長

杉本健治



約五十年前の親鸞聖人七百回大遠忌を機に全国で「仏教壮年会」の機運が
高まり、昭和五十四年三月十三日「仏教壮年の結集に関する宗則」の発布に
合わせて「全国仏教壮年会議」が設置されました。以来、約三十年を経て平成
二十年四月一日に「浄土真宗本願寺派 仏教壮年会連盟」として再出発して
三年が経ちました。

これまで「仏教壮年会の立ち上げを」と、折に触れてお願いしてきましたが、
最近では「仏壮が発足できそうなお寺」「仏壮はあるが未登録のお寺」などに
私自身が役員と共に足を運びお願いに回っています。すぐに結果が出なくて
も行動することで連盟の熱い想いが伝わると思うからです。

結成ができない理由は様々ありますが、住職と門信徒が問題点や課題を共
有することで、おのずから道は開けてくるのではないのでしょうか。過疎地で
も寺院の将来に危機感を持って真剣に取り組めば、お寺の活性化にも結びつ
くと思います。

単位会の登録目標として、全寺院の50%(現在24.4%)を目指しています。
平成二十二年度からは『単位会結成に向けた研修会』を初めての事業として
各連区で開催しました。すぐに結果が出なくても、このような『研修会』を開
催して単位会結成の種まきをしておくことが大切だと思います。この事業は
平成二十三年度も継続して実施予定ですので、ぜひご協力賜りたく存じます。
最後になりますが、全国仏教壮年会議員、仏教壮年会連盟評議員、副理事
長など七年間にわたり務めさせていただき平成二十三年三月三十一日を
以って退任します。仏壮の「連盟化」や「親鸞聖人七百五十回大遠忌」のこの
時期に携わることができたご縁をよろこびたいと思います。お世話になった
皆さまに心からお礼申し上げます。

合掌